

# 岸田袈裟さんが逝去

## ケニアの生活改善に尽力

上郷町出身でアフリカ・ケニアの生活改善に30年以上にわたり取り組んだ岸田袈裟さんが2月23日、盛岡市内の病院でお亡くなりになりました。66歳でした。岸田さんは1973(昭和48)年にケニアで栄養調査に取り組み、1994(平成6)年から2003(同15)年までは国際協力機構(JICA)の駐在専門家

として活躍。ふるさと遠野で使われてきた草履やかまどを普及し、住民の衛生指導や生活改善に貢献してきました。また、郷土遠野の発展のため、多くの市民に活動体験をお話するなど、国際協力の大切さを広めてきました。2007(同19)年には「読売国際協力賞」と遠野市民栄誉賞を受賞



遠野の文化を活かして国際貢献に尽力した岸田さん

●「岸田袈裟さんを偲ぶ会」を開催します  
どなたでも参会できます。平服でお越しください。日時 4月18日(日)10時～場所 〓あえりあ遠野交流ホール  
問い合わせ 〓市総務課(☎2111内線212)



柳田國男・水木プロダクション/小学館

「わたるくん」に決まりました。たぐさんご応募ありがとうございました。

日本を代表する漫画家・水木しげる先生が描いたカップのキャラクターの愛称が「わたるくん」に決まりました。このキャラクターは『水木しげるの遠野物語』に登場する愛嬌のある赤いカップ。市はこれを『遠野物語』100周年キャラクターとして活用しています。1月から実施した愛称募集には全国から1306通の応募があり、愛称選考委員会と100周年記念事業推進本部

で選考。遠野の語りの文化を継承・発信していくイメージに合致するものとして決定しました。命名者の多田淳さん(21) 〓宮守町宮守は「愛称に選ばれてとても光栄です。皆さんからいつまでも愛されるキャラクターになるとうれしいです」と話していました。「わたるくん」は今後、ポスターや観光マップ、スタンプラリーなどに描かれ、100周年の盛り上げに活用していく予定です。

# 新たに87人の語り部が誕生

## 千人プロジェクト認定証交付

第2回「こだわりの語り部」認定証交付式は3月18日、図書館視聴覚ホールで行われました。新たな語り部に認定された87人のうち41人が出席し、同認定委員会の佐藤誠輔委員長などから認定証が交付されました。

それぞれのジャンルのスクリーニングを開催。11日に開催された認定委員会の審査で、受講者全員を「語り部」として認定しました。佐藤委員長は「これは合格証ではありません。皆さんには、良いものを見たり聞いたりして研さんを積み、今後の100周年事業でどんどん活躍してほしい」と呼び掛けました。

月ごろから始まる予定です。小向孝子遠野物語100周年プロジェクト推進室長は「遠野には、多くの知識や技術を持った語り部がまだまだいる。ぜひ多くの人に挑戦していただき、100周年の年を盛り上げてほしい」と話していました。



それぞれのジャンルの認定委員から、認定証の交付を受ける語り部の皆さん

# 加守田氏の作陶品寄贈

## 貴重な宝を後世へ

### 松崎町の沼田功さん

松崎町の沼田功さん(73)は3月16日、市役所を訪れ、日本を代表する陶芸家・故加守田章二氏の作品6点を市に寄贈しました。沼田さんは1967(昭和42)年に加守田氏と出会い、作陶に使う遠野の土を紹介。以後、青笹町に陶房を構え作品を制作した加守田氏を公私にわたり支援してきました。沼田さんは「すばらしい作品を多くの人に見てもらいたい」と話していました。寄贈された作品は、4月24日にリニューアルオープンする市立博物館で展示されます。



寄贈した作品の一部と沼田功さん(右)

# 『遠野物語』100周年を祝う書軸一幅寄贈

### 宮守町出身の河野忠功さん

宮守町出身で東京都在住の河野忠功さん(80)から、『遠野物語』発刊100周年を祝い制作した作品『天狗 座敷童子 河童 妖怪 神隠 昔話』の書軸一幅が寄せられました。河野さんは現在、亀甲会に所属し「亀甲展」などさまざまな展覧会に出品しています。また、宮守町出身者とゆかりの人たちで構成する「みやもりふるさと会」の会長も務め、みやもりホールには平成16年に寄贈された書額「千年の森」が展示されています。



書軸は今後、『遠野物語』発刊100周年記念イベントなどで活用していく予定です。

上野の森美術館で開かれた「亀甲展」に出品した河野忠功さんの書軸

# 消防団協力事業所を認定し

## さらなる防災力の充実を目指す



交付された消防庁の協力事業所認定証

総務省消防庁消防団協力事業所認定証交付式は3月25日、市役所で行われました。同制度は、市消防団協力事業所で特に顕著な功績が認められる事業所を認定するもので、地域防災力の充実・強化を推進します。式には認定を受ける事業所の代表者など20人が出席し、本田敏秋市長から認定証が交付されました。本田市長は「事業所の理解と、団員の熱意が今回の認定につながった。今後も安心・安全のまちづくりに一層の協力をお願いする」と呼び掛けました。また、市消防本部は新たに二つの事業所を市消防団協力事業所に認定し、奥寺啓蔵消防長から認定証が交付されました。今回の認定により、市



本田敏秋市長から認定証の交付を受ける事業所の代表者

- 1 消防団協力事業所
- 1 岩手クボタ遠野北支店(菊池常介支店長、従業員12人)
- 2 かばら建設(浅沼昭男代表取締役、従業員52人)
- 3 栄組(佐々木ヤスミ代表取締役、従業員25人)
- 4 テラ(三浦貞一代表取締役、従業員55人)
- 5 東洋レンズ岩手工場(宮原昭代表取締役、従業員180人)
- 6 佐藤建設(佐藤光壽代表取締役、従業員25人)
- 7 遠野建設工業(長洞由視代表取締役、従業員50人)
- 8 菊栄工務店(菊池栄喜代表取締役、従業員22人)

# 当歳馬越冬放牧施設が開所

## 遠野産馬の一層の活躍に期待

乗用当歳馬越冬放牧施設の落成式は3月12日、遠野馬の里で行われました。同施設は公共牧野が閉牧する11月から5月までの期間、当歳馬(生後1年未満の子馬)を集団飼養するために整備。運動用パドック(3049平方メートル)に木造平屋の厩舎(床面積253平方メートル)を備え、最大30頭を収容可能。事業費は1599万円。



完成した乗用当歳馬越冬放牧施設。最大30頭の子馬の育成・強化を図る

市乗用馬生産組合の菊池栄喜組合長は「念願の施設が完成した。組合員一丸となり、世界で活躍する馬を育成していきたい」と話していました。